

平成 30 年度一般入試後期日程学力試験講評

【後期学力試験の基本的な姿勢】

宮崎公立大学国際文化学科が行う「総合学力試験」として、以下の 3 点を念頭において作題した。

- 1、地域社会が直面する国際的・文化的かつ現代的な内容を取り上げる。
- 2、内容の正確な理解に加え、得られた情報を活用して的確に判断する能力を問う。
- 3、自らの体験・価値観や具体的情報・知識を活用しつつ、合理的な評価並びに妥当な判断を「小論文」として表現・展開する技能と態度を問う。

問 1

<解答例>

スピーキングは英語のその他の技能つまり読解、作文、聴解に比べてやさしい。何故ならば、スピーキングに必要となる語彙は少ないからだ。

<講評>

主張の内容の説明、その理由ともに正答率が高かった。誤答としては“vocabulary”の意味をとり違えているものや、下線部よりも前の内容を理由として挙げているものがあった。Yasukochi, however, insists that... because と明確な接続詞が使われているので、参照箇所を間違えないようにしてほしい。

問 2

<解答例>

(訳) 三単現の s を忘れたくらい 大したことではない。

(理由) 完全な文章で言わなくてもよく、いくつかの単語を伝えるだけで事足りるから。(例えば、Shrine Shinto, Temple Buddhism で十分だ。)

<講評>

訳に関してはかなり正答率が高かった。理由の記述については、寺社の話だけを書いているものは減点とした。such as... とあるように、あくまで寺社の話は例なので、下線部直後の Even communicating in a few words instead of a full sentence is fine について言及すること。

問 3

<解答例>

・外国人を助けたり、観光スポットに案内したりするような、経験することが良い学習になること。

・Skype などのコミュニケーションツールを利用し英語話者との会話のように、インターネ

ットを利用すること。

<講評>

完全な誤答は少なかったが、問いに十分に答えられていないものが多かった。下線部直後の First, experience is the best teacher と、次の段の Second, take advantage of the Internet が直接的な正解部分であるが、それらに言及せず、後に続く例の内容だけを記述しているものについては減点した。

問 4

<解答例>

foreigners who seem to need help, such as those struggling with directions

(those who are in need, regardless of nationality も可)

(foreigners coming to Japan では困っているかどうか判断できないので、不正確である。また、I try to assist foreigners in need,…の下線部分をあげているものは不可。区別がつかない。)

<講評>

正答率は 60% くらいであった。foreigners in need (困っている外国人) と同意の表現を採るのであるから、人を表す表現でなければならない。該当箇所は foreigners who seem to need help (such as those struggling with directions) であるが、この部分の前にある前置詞 past (不要部分) を含んだ誤答や逆に who seem to need help と必要な foreigners が足りない誤答も多かった。他に正答として可能な表現としては those who are in need, regardless of nationality の部分もある。those who ~ という表現が「~ のような人々」という意味であることを理解していれば抜き出せる。ただし、下線部④は foreigners ~ であるから regardless of nationality が必要である。もしこの表現がなければ、外国人でなくても誰でも良いことになってしまう。

問 5

<解答例>

外国人を助けようとする際に俗語を使いすぎると、相手に悪い印象を残してしまうことがあるから。また、俗語によっては相手に対して無礼な表現になるから。(相手を不快にさせてしまうものもあるから。)

<講評>

正答率は 60% ほどであった。問 5 は、「スラング (俗語) は使用しすぎないように注意すべきだ」の理由を問われている。この表現のすぐ後に because があるので「スラングの使用過多は悪い印象を与える可能性がある」の部分は見つけやすかったであろう。より完璧な読みをするならば、この表現の次に Also という言葉に着目し、some slang is offensive の部分まで含めて解答すべきである。offensive の意味を「(言葉や態度などが) 失礼な、侮辱的な」

と取らないで「攻撃的な」と解釈しているものが目立った。因みに slang は不可算名詞である。

問 6

<解答例>

(東京は 2020 年のオリンピック、パラリンピックの主催都市になっていて、) 外国人訪問客の数が増え続けること を念頭において、英語を話せるよう今努力し、日本を外国人に優しい国にしようではありませんか。

<講評>

正答率 60%ほどであった。This の内容は 8 割くらいの受験生がきちんと捉えていた。With this in mind の付帯状況の用法も大体捉えられていた。“have A in mind” (A を念頭に置いている) という表現から考えられる。“why not~”の部分についてであるが、これは少しくだけた表現で、“why don't you [we]~”と同様に提案・助言・勧誘などを表す表現である。つまり、「~したらどうですか」、「~しよう」、「~しませんか」のような意味に捉えるのが自然である。この部分を文字通り「なぜ~しないのか」としている解答が多かった。文脈上どのような日本語表現が適切か考えて欲しい。

問 7

<講評>

問 7 の問題文には、「(1) 問題文 1 と問題文 2 の内容をそれぞれ簡潔にまとめ、(2) それをもとに、あなたの考える「おもてなし」について、理由を示して」とあるが、その問いに答えていない解答が散見された。小論文の課題を解答する際には、問の文章をよく読み、問われていることに対して適切な論述をすることが大切である。

まず、問題文 1 と問題文 2 の内容のまとめが半分以上にもなる解答があった。また、本文から「」で引用するだけで、要約になっていない回答もあった。簡潔にまとめることが求められていることに注意してもらいたい。

次に、あなたの考える「おもてなし」が問われているにもかかわらず、問題文 1 と問題文 2 の内容を再度述べる解答も多かった。「あなたの考える」おもてなしが問われているのであるから、自分の考えを書いてほしかった。また、「あなたの考えるおもてなし」について述べていても、抽象的であったり、根拠を示さない個人の主張であったり、それがなぜおもてなしとなるかの理由づけができていないなどの解答も少なくなかった。オリンピックの説明や、英語教育について論じるなど、問いに対して論点がずれているものもあった。

論述の形式についても、不十分な回答が散見された。誤字、脱字、段落がない、句読点がない、などの文章は読みにくいだけでなく、文意がよく伝わらない。漢字で書くべき語句をひらがなで書いている受験生が多いことも残念である。日頃からテーマを決めて文章を書くなど、小論文課題に備えてもらいたい。